

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成23年6月2日(2011.6.2)

【公表番号】特表2008-505358(P2008-505358A)

【公表日】平成20年2月21日(2008.2.21)

【年通号数】公開・登録公報2008-007

【出願番号】特願2007-519254(P2007-519254)

【国際特許分類】

G 0 2 C 7/04 (2006.01)

A 0 1 N 25/02 (2006.01)

A 0 1 N 59/16 (2006.01)

A 0 1 N 59/20 (2006.01)

A 0 1 P 3/00 (2006.01)

G 0 2 C 13/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 K 47/12 (2006.01)

A 6 1 K 47/04 (2006.01)

【F I】

G 0 2 C 7/04

A 0 1 N 25/02

A 0 1 N 59/16 A

A 0 1 N 59/16 Z

A 0 1 N 59/20 Z

A 0 1 P 3/00

G 0 2 C 13/00

A 6 1 K 9/08

A 6 1 K 47/12

A 6 1 K 47/04

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年4月14日(2011.4.14)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項2】

請求項1に記載の包装溶液において、

前記抗菌金属と前記包装溶液塩の陰イオンとから形成される塩のKspが、約 10^{-6} より大きい、包装溶液。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

好ましくは、前記抗菌金属および包装溶液塩陰イオンから形成される塩のKspは、約 10^{-6} より大きく、抗菌金属塩のKspは、約 10^{-12} 未満である。別の実施態様では、抗菌金属塩のKspと、前記抗菌金属と包装溶液塩陰イオンから形成される塩のKspの間の差(即ち ΔKsp

)は、少なくとも約6桁、好ましくは少なくとも約7桁、さらに好ましくは少なくとも約8桁の大きさ(magnitude)である。 ΔK_{sp} が約6桁未満の大きさである抗菌金属と包装溶液塩との配合物は、反復オートクレーブ処理時の損失が約15%未満になる程度に当該包装溶液中の塩の量が低い限り、使用されることができる。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0050

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0050】

〔実施例15〕

以下の成分(全量は、配合物の総重量の重量%として計算された)から調製されたヒドロゲルブレンド15.0 gに、ヨウ化ナトリウム(3.2 mg Aldrich)が添加された：17.98%マクロマー5、28.0% mPDMS、14.0% TRIS、26.0% DMA、5.0% HEMA、1.0% TEGDMA、5.0% PVP、2.0% Norbloc、1.0% CGI 1850および0.02% Blue HEMA(80重量%の前記成分混合物が、さらに、希釈剤で希釈された)、20重量%のD30(D30モノマーブレンド)。当該混合物は、30で1.5時間超音波処理され、その後、加熱オーブン中、55で一晩保存された。当該モノマーミックスは、真空下で30分間脱気され、Philips TL03ランプの30分間の照射による、50~55のTopasフレイムを用いたレンズ成形に使用された。